

実は子どもは大天才！！

～子どもの絵の見方～

“美”とは、『色』と『形』の調和です。その感覚は1人ひとりがそれぞれ違い、それを“個性”と言います。ですから、見えたままの色、数でなくても、「この色はここに置いた方がきれいだな」、「この果物は1個しかないけど3個描いた方がバランスがいいな」とその子が感じて描いたとしたら、それはその子が感じた“美”なので、全てを認めてあげることが大切です。もし、「そこはその色じゃないでしょ！」「何で1個しかないものを3個も描くの！」と言ってしまうと、子どもは大人に認められたいという気持ちをみんな持っているので、自分が描きたいものではなく、大人から褒められる絵を描こうとします。そうして個性が無くなっていきます。また、「そんなにガミガミ言われるのなら描かない方がマシ」と思い、描かなくなります。そして、「やっぱり自分がいいと思っていることってダメなんだ...」と、どんどん自己肯定感が低くなってしまい、自信のない子になっていきます。

極端な話、パイナップルに見えなくていいんです。綺麗な色づかいだったり、面白い線だったり、その子にしか描けないような絵になっていけば、素晴らしいのです。

例えば、右の絵を見て下さい。ぐちゃぐちゃに描いているし、バックも塗っていないしとても上手とは言えない絵ですが、実は『バスキア』という、ピカソの再来と言われた人が描いた絵で、億を超える値段で取引されています。『バスキア』は、残念ながらもう他界してしまっていますが、生前は、「僕は上手に描く事には全く興味ない。子どものような絵を描きたい！」と公言していました。それほど芸術家からすると子どもの絵は魅力的なのです。



踊りや歌や絵などの表現活動は、人間がまだ言葉を持たない頃から行われている、人間の本質的な活動です。それを否定されてしまうと、全人格を否定されたくらいのショックを受けるといわれています。表現を認めてあげる事こそが、人格形成において自己肯定感を高める上でとても重要な事の一つになりますので、ぜひお子さんの作品をほめてあげてください。

今回の活動は、モチーフをパイナップルにして、単純にも見えるし複雑にも見える、描きやすく自由度が高いものを選びました。(あまりにも複雑なモチーフだと、できないと感じる子どもたくさんいるからです。単純にすることによって、子ども達はみんなのびのび、楽しく描いていました。)

そして、こだわったのは、『画材』です。使用した絵の具は“速乾性のある油絵具”のような特殊な絵の具で、プロの画家も使用しているようなもので、正直とても高価です。「子どもだからもったいない」と、安価なもので描いてしまうと、色がどんどん混ざってしまい汚い作品ができて終わってしまいます。この絵の具だからこそ、色がどんどん重なり合ったり、きれいな混色ができたりするのです。また、紙もキャンパス地のような風合いが出る特殊な紙を使用しました。これらの条件がそろったので、素晴らしい作品が出来上がりました。正直、費用も掛かることなのですが、使用にご理解頂いたくじら保育

園さんに感謝致します。

何よりも大切なのは、“大人が手出し口出しをしないこと”です。簡単な絵具の使い方は伝えましたが、その他はほとんど何も言っていません。子どもが描きたいことを考え、自由に表現したものです。子どもの能力を開放してあげるのは、すべての行動にいちいち指導するのではなく、環境を整えた上で手出し口出しを最小限にしてしっかり見守ってあげる事が大事です。そして、子どもたちが作った作品を100%認めてあげる。それが、子どもに関わる大人ができるとても大切な事です。だから、みんなの作品は、みんな違っていています。

『みんな違ってみんないい！！』 この考えが、今からの社会にとっても大事な考え方になっていく事だと思っています。

くじら保育園の子ども達は、とても集中しとても楽しそうでした。早い子で30分、長い子では1時間20分やり続けました。ある子はパイナップルをととても小さく描き、バックを複雑な色で塗り作品に深みを与えていたり、ある子は青や紫の寒色のバランスを楽しみながら色を置いていたり、ある子とはとにかく絵の具が混ざっていく面白さを感じひたすら色を重ねていたりして、それぞれに探求し、楽しんでいました。そして、みんなが描き終わった後に全員の前で1人ひとりの絵を褒めました。どの子どもみんないい顔をして、とてもうれしそうでした。

私達大人の仕事は、『楽しかった～！またやりたい！！』と思わせてあげる事です。人間の能力は、経験すればするほどどんどん伸びていきます。しかし、『もうやりたくない』と後ろ向きになった時、意欲が無くなり経験が止まり、能力の伸びが止まります。今日、最後のあいさつが終わった時に、『あ～、楽しかった～』と言ってクラスを出ていくのを見て、今日の活動が子ども達にとって楽しい時間になったのだなと感じ、とても嬉しく思いました。

子どもにとって1番大切な事は、『すべてを認めて、褒めてあげること』

今回も『バスキア』のような絵がたくさん生まれました。

何度も言いますが、お子様の絵をたくさん褒めてあげてください。

わくわく創造アトリエ 田上